

会 議 録

1 会議名

令和元年度第1回上越市食料・農業・農村政策審議会

2 議題（全て公開）

- (1) 令和元年度 上越市食料・農業・農村アクションプランの実施状況について
- (2) 上越市食料・農業・農村基本計画中間見直し（後期計画策定）について
- (3) その他

3 開催日時

令和元年11月20日（水）午後3時から

4 開催場所

上越文化会館 大会議室

5 傍聴人の数

3人

6 非公開の理由

—

7 出席した者の氏名（敬称略）順不同

- ・委員：齊藤今朝男、松野千恵、嶋谷玉実、村松勝藏、小山田房子、井上智子、松野玲子（代理出席）、菱田守、神田和明（代理出席）、藤沢勝一郎、岩崎健二（代理出席）、尾寄亨、前川敏志、土田志郎、小坂博成、太田和枝
- ・事務局：近藤農林水産部長、栗本農業委員会事務局長、横山農林水産部参事、桐木農村振興課長、佐藤農林水産整備課長、農政課 太田副課長、栗和田副課長、南波係長、飯田係長、早川係長、高橋係長、原主事

8 発言内容（要旨）

(1) 開会

(2) あいさつ

【近藤部長】

- ・委員の皆様には、上越市農業の振興に多大なるご協力、ご指導いただいていることに改めて心から御礼を申し上げます。
- ・10月に発生した台風19号により、当市では土砂崩壊等に起因する600件以上の甚大な農林水産被害が発生した。被災された皆様に改めてお見舞いを申し上げますとともに、

現在、国や県と協力し、来年の作付に影響がないよう全力で復旧に取り組んでいるところである。

- ・さらに、今夏の猛暑により、当市の主力品種であるコシヒカリの一等米比率が10%にとどまっており、良質米の一大産地である当市にとっては、これまでにない深刻な状況と受け止めている。これについても、農業者の営農意欲を削ぐことがないように、来年度以降の対応を関係機関とともに検討してまいりたい。
- ・さて、本日は委員改選後、初めての審議会であるが、当市における農林水産業の基本方針を定めた上越市食料・農業・農村基本計画の見直しの時期が来年度に迫っている。当市は米の生産が太宗を占める中において、平成30年度からは生産調整が廃止となり、国内需要は継続的に減少し、国内の産地間競争は一層激化をしていく状況になっている。これには、近年の避けられない異常気象を想定しながら、今度更なる経営判断が重要なカギになってくると考えている。
- ・当市においては、しっかりとした経営マインドを持った認定農業者や大規模法人経営体が全国に先立って進展をしてきているが、これは平場に限ったことであり、中山間地域では、高齢化が進み、後継者不足が問題となっている。このまま対応をしなければ、中山間地域の貴重な農地が失われるばかりではなく、平場の農地にも土砂災害や水源不足等の悪影響を及ぼす懸念がある。
- ・今後、大規模法人経営体からお力添えをいただくことは多々あると思うが、個人の経営体や家族経営体といったバランスの取れた安定した経営体系と新しい担い手が参入しやすい環境を整えることが、今後の上越市農業を持続可能にすることではないかと考えており、それを進めるため、今期の委員には多様な主体の方々にご参画いただくこととした。本日は、それぞれの立場から忌憚のないご意見を賜りたい。

(3) 委員紹介

【高橋係長】

- ・委員名簿により紹介（委員の役職・氏名を読み上げ）
- ・上越市食料・農業・農村政策審議会規則第3条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

(4) 上越市食料・農業・農村政策審議会について

【栗和田副課長】

- ・資料「上越市食料・農業・農村政策審議会について」により説明（説明省略）

(5) 正副会長の選任について

【高橋係長】

- ・上越市食料・農業・農村政策審議会規則により正副会長の選任について説明（説明省略）

【岩崎委員（代理）】

- ・事務局の推薦案を求める。

【高橋係長】

- ・事務局の案として、会長に土田志郎委員、副会長に清野誠喜委員を推薦する。
- ・本日、清野委員は欠席であるが、副会長への推薦については事前に内諾をいただいている。

<委員から異議なしの声あり>

<土田会長は会長席へ移動、着席>

(6) 議事

① 令和元年度 上越市食料・農業・農村アクションプランの実施状況について

【土田会長】

- ・ただいま皆様から会長にご推挙いただき、誠に身の引き締まる思いである。経験豊富な委員の皆様と事務局の協力を得て、円滑な議事運営に努めてまいりたい。
- ・それでは、令和元年度上越市食料・農業・農村アクションプランの実施状況について、事務局から説明願いたい。

【栗和田副課長】

- ・始めに、資料No.1 及び資料No.2 については、平成 30 年度の実績を反映した確定版として配付させていただいたものであるため、説明は割愛させていただく。
- ・資料No.3 については、今年度の実施状況をまとめたものであり、その中から主な事業を抜粋し、個別の説明資料としたものが資料No.3-2 である。本日は、資料No.3-2 に基づき、担当課長から説明をさせていただく。

【事業担当課長】

- ・資料No.3-2により説明（説明省略）

【土田会長】

- ・ただ今の説明に対する質問については、この後の意見交換の場で発言願いたい。

② 上越市食料・農業・農村基本計画中間見直し（後期計画策定）について

【土田会長】

- ・上越市食料・農業・農村基本計画中間見直しについて、事務局から説明願いたい。

【栗和田副課長】

- ・資料No.4、資料No.5により説明（説明省略）

<意見交換>

【土田会長】

- ・それでは意見交換に移る。今までの事務局からの説明及び全体を通じて、各委員からご質問やご意見を伺いたい。

【藤沢委員】

- ・資料No.3-2のP22 ふるさと玉手箱事業について、支援内容を詳しく教えていただきたい。

【横山参事】

- ・この事業は地域マネジメント組織が農産物を都市部に販売する活動について支援をしており、送料を含め、梱包に必要な資材等にかかる経費を補助している。

【土田会長】

- ・今年度のアクションプランにおける実施状況の説明の中で、米の品質低下について説明があったが、農協や県から補足説明があればお願いしたい。

【岩崎委員（代理）】

- ・先程説明があったとおり、コシヒカリは過去にない等級比率となっている。来年度は高品質の米の生産に向け、県と連携しながら、来週は作柄検討会、12月には土づくり講演会を実施し、対策を進めているところである。また、年明けには各集落で座談会を開催し、農業者へ今年度の品質低下の要因や来年度に向けた対策等を説明したいと考えている。
- ・品質低下となっているが、田植え前に業者と締結しているため、販売については、

見通しが立っている。

【前川委員】

- ・今年 of 作柄については、全県的に悪い。その中でも特に上越地域は品質だけにとどまらず、収量も伸び悩んでいる。この品質低下を受け、県では研究会を設置するなどし、対策について検討を重ねているところである。収量については、早生品種で多収穫である「つきあかり」を取り入れているが、伸び悩んでいる状況である。基本的な話になるが、「つきあかり」は早生品種であることから、経営の中において、最初に植える品種にするべきではないかといったことも検討している。
- ・そして、一番力を入れなければならないことは、情報の伝達だと思っている。我々が技術員として発信したことが、農業者の行動に移ってこそ、情報は初めて価値のあるものになると思っている。情報の伝達方法、そして行動につなげていただく方法を考えていきたい。

【土田会長】

- ・県農業共済組合から見た今年 of 米作りや天候不順による農作物への影響について、ご紹介いただきたい。

【尾寄委員】

- ・昨年と比較すると、米作りにとっては天候面で非常に楽な年だったと思う。当組合では、村上市から糸魚川市まで管轄範囲となっているが、昨年は灌漑、一部は強風によって、組合全体で米に対して共済金の支払いが約 6 億円あった。一方、今年 is 上越地域だけをみても、ほとんどが獣害によるものであり、共済金の額は今現在で約 1,500 万円、組合全体では約 6,500 万円であることから、被害は減少してきている。
- ・上越支所管内の話をする to、今の事業エリアになったのが、平成 11 年であり、水稻の作付面積は 2 万 ha、農家は 2 万人いた。平均一人あたり 1ha だったのが、20 年経った今年 is 約 1 万 8 千 ha で、農家の数は概ね 6 千人となっており、保険に加入をいただく数としては、そこまで減少してきている。農業保険を取り扱う立場として、やはり分母が小さくなるということは、保険のリスクが上がってくるものと基本的には考えている。しかしながら、今の基盤整備の進捗や機械化の進展など、条件が多様に変ってきており、実際農家から報告がある被害は、統計上はそう上がってきてはいない。したがって、従来と同じ保険に加入いただけるといふのが今の状況である。
- ・ただ、今年 of 台風 15 号や 19 号といった災害が発生したときに、上越地域の約 6 千人の農家の方々が翌年に向けて、復旧していくことができるかを考えると難しいと思う。

では、持続的に農業を続けていくには何か必要かということになるが、農業に携わる人を増やすことだと思っている。かねてからお願いをしているが、このことについて検討を続けてもらいたい。

【土田会長】

- ・その他、ご意見やご質問があればお願いしたい。

【小坂委員】

- ・資料No.3-2 の P18 スマート農業実証プロジェクトについて、生産コストの低減がうたわれているが、コスト低減というのは労働力が余ることにつながる。その労働力をどう振り向けるのかということも、この委員会で検討してはどうか。それから、先端技術の導入には相当な経費がかかるが、どの程度の規模であれば採算が合うのか。一般の農家には、相当な補助がないと定着しない。
- ・やはり農家の所得向上が基本で、その所得向上の体系構築の中に、スマート農業があるのではないかと考えている。上越市のスマート農業として、余った労働力で複合作物を導入するのかなど、市の考えを聞きたい。

【太田副課長】

- ・生産効率の向上によって、労働時間が短縮となり、余剰時間が出ることをどう捉えていくかというのは、全国 69 の組織が取り組んでいる中で、課題として出ているが、経営面積を増やすことや余剰機械の整理につながるものと考えている。それから、余った労働力で園芸を導入することについては、新潟市がその実証に取り組んでいるところである。
- ・当市の実証ほ場は大規模水田であり、作業受託で収入を得ていくのか、また経営面積自体を増やしていくのかということにつながってくると考えており、今後整理をしていきたい。
- ・先端技術の導入については、市内に普及させていくことをできるだけ考え、高額である無人トラクター等は導入していない。高野生産組合では、全体の面積が約 72ha のうち、大部分が水稲であるため、トラクター、田植機、コンバインともに 1 台では賅えないが、導入した機械が経営に対してどのような効果が得られたということも、実証の報告対象になっていることから、その点はしっかりと検証していきたい。

【齊藤委員】

- ・資料No.3-2 の P17 園芸振興事業について、私の居住地区では昨年に大規模ほ場整備が完了し、今年から全面作付可能となったことから、えだまめやえだまめの後作として

試験的にブロッコリーと園芸にも取り組み始めた。この資料の中では、農業者への貸出用機械等を積極的に整備したと記載してあるが、当方が借り受けた機械は古く、逆に手間がかかってしまい、集落の人にも作業を依頼し、大人数で収穫作業をした経過がある。来年も園芸拡大に取り組みもうと考えていたが、収穫の段階にきて、これでは拡大できないと考えが一転した。他県では機械等を農協や行政が整備し、農業者をバックアップしているところもあると聞いており、園芸に取り組みやすい環境整備をお願いしたい。

【横山参事】

- ・現在、市内ではえだまめコンバインを導入している農業者もいる。来年、えだまめコンバインを使用したいとご相談をいただければ、所有している農業者の方を紹介させていただく。

【小山田委員】

- ・農産物のブランド化は、米やえだまめに特化しているのではないかと思っているが、野菜や果物のブランド化を市はどのように進めていくのか。

【桐木課長】

- ・県や農協、市で特産野菜や伝統野菜を上越野菜として認定をしており、行政が中心となって取り扱っている。宣伝不足は否めないが、今度は農業者の意に沿うような形で宣伝を進めていきたい。

【松野千恵委員】

- ・実際に農業をしている中で思うことは、一つの農家に対して求められていることがたくさんある。農家は農作物を作ることが主であるが、販売や社長業も求められる。社長が自ら事務を行っている場面が多々見受けられ、一般企業であれば様々な部署があり、業務を振り分けられるが、どうしても一人に集中してしまうのが、農業の現場だと常日頃思っている。市等への提出書類も多いのが、最近の農業の現状だと感じており、書類作成等の負担が軽減されるように取り組んでいただけたらありがたい。

【鳴谷委員】

- ・今、説明を聞いて、平場の大規模な農家向けの政策が多いと感じている。それと同様に中山間地域についても取り組んでいただきたい。
- ・私が住んでいる集落では、一人あたり約 1ha の農地を管理している。ほとんどの農業者が 80 代前後であるが、その方達のおかげで私達が暮らし続けられている。中山間地域でも希望を持って農業が続けられる政策を考えてもらいたい。

【菱田委員】

- ・当市場においては、生産者が丹精込めて作られた青果物をより有利な販売につなげることを大前提としている。上越の青果物あるいは食を全国に発信する機会をもっと増やし、上越の良さを全国に広める取組が今まで以上に必要であり、それに十分たる美味しさを持った青果物、水産物等を宣伝していただければと思っている。
- ・また、今回の台風等で当社も被害を受けたが、災害対策についても今まで以上に考えていただきたい。

【神田委員（代理）】

- ・資料No.3-2のP18 経営所得安定対策推進事業については、非常に興味深い内容である。個人的には水稻はスマート農業に向いている面が多々あり、先程も話があったが、労働力が分散されて、新たなものづくりができたらいいのではないかと思っている。
- ・しかし、手作業でやらなければいけないものや単純作業について、スマート農業を導入しても効率は上がらない。当社では農福連携を取り入れており、非常にスムーズに仕事が進む場面が多くある。農業の仕事も分解していくと、農福連携の道が多数あり、主たる生産者も違う作業ができるといった面もあると考えている。
- ・我々も上越産の葡萄が欲しい中で、農業施策として園芸作物に取り入れていただき、さらには農福連携を導入し、低コストで地域貢献できるものづくりを市と連動してやっていければと思っている。

【太田委員】

- ・法人化して従業員を雇用したとしても、最終的には社長が行うことが多いので、やはり先程も話があったが、資料や提出書類は簡易になるのが一番いいと思う。農業離れの原因はそこが大きいのではないかと思っている。

【松野玲子委員（代理）】

- ・パルシステム東京は、首都圏の1都10県で展開している生協であり、創立50年を迎える中で、約40年前の吉川区との交流をきっかけに、商品の取引だけではなく、人と人が行き交う交流をずっと続けてきた。商品も吉川区の酒や餅、味噌等の取引から始まって、今は市と協定を結び、米や自然薯も含めた青果を取り扱わせていただいている。
- ・その中で当社では予約登録米制度を導入しており、米の1年間の全体出荷量の半数を占めている。生産者側も安定的に作れると好評をいただいております、消費者側にも決まった時期に米が届くということで、大変喜ばれている。一方で農作物については、落ち

込みが広がってきている。これはすぐに調理可能な簡単お料理セットという商品の需要がすごく増えており、農産物単体の供給が下がってきているためである。

- ・当社では2030年に向けて、新たなビジョンを作ろうと今動いている。その中で大事にしたいのが、環境保全型農業と資源循環型農業である。これは過去からも推進しているが、もう一度原点に立ち返って、改めて我々職員を始め、消費者である組合員にも、作り手の様々な思いや苦勞を、交流を通して伝えていきたいと思っている。安心安全というのは、生協では相当達成してきたが、それは他社も取り組んでいることであり、そこに付加価値を付けるため、環境保全型農業、資源循環型農業を推進していきたいと思っている。

【井上委員】

- ・私は主に食育に力を入れており、地産地消の推進のため、なるべく地元の野菜を使って、子ども達に料理を教えている。
- ・今年は台風による被害を受けたが、来年はどうなるのかを考えると、気持ちが少し落ち込んでいる。
- ・今、農協のバックアップがあって、米ふれあいスクールというものを開催しており、明日は高田農業高校に行く予定である。高田農業高校の子ども達が、できたら上越の農業を担ってくれたらいいと思い、料理をしながら話をしている。
- ・農業者の方々には、いつも頭が下がる思いで食材を使わせてもらっているので、これからもよろしくお願ひしたい。

【村松委員】

- ・資料No.3-2のP23 鳥獣被害防止対策事業について、農協と市が連携しながら、個体をどう減らすかということを検討してもらいたい。今年はイノシシの個体が減るような降雪がほとんどなかった。今冬も少雪の見込みであり、イノシシは増えていくと思われる。今年は市街地にも出没している状況であり、中山間地域はもちろんのこと、平場においても積極的に取り組んでいただきたい。

③ その他

【土田会長】

- ・事務局から説明願ひたい。

【栗和田副課長】

- ・資料No.6により説明（説明省略）

【土田会長】

- ・ それでは、最後に本日配付したふるさと上越ネットワークの資料について、藤沢委員から説明願いたい。

【藤沢委員】

- ・ 資料に基づき説明（説明省略）

(7) 閉会

【土田会長】

- ・ 本日の意見や質問を踏まえ、事務局には再度内容を整理していただくとともに、今後の上越市食料・農業農村基本計画の中間見直し作業等に活かしていただきたい。
- ・ 以上で「令和元年度第1回上越市食料・農業・農村政策審議会」を終了する。

9 問合せ先

農林水産部農政課農業総務係 TEL：025-526-5111（内線1738）
E-mail：nousei@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。